

令和6年度第2回高知市地域福祉計画推進協議会 欠席委員からのご意見

	氏名	意見
1	長尾委員	<p>・町内会連合会としては、「若者が地域に関わるきっかけづくり」が重要と感じている。他の団体と話をすることで、PTA活動を9年間実践してきた人材を9年間の活動後、活動から離れてしまうのはもったいない。PTA活動をしていた人材をどう地域の活動につないでいくかは重要だと感じている。</p>
2	岩田委員	<p>・施策体系について、基本目標がより分かりやすく整理されたと思います。          ・共生社会実現の基本は、誰もが活躍できる地域づくりにあると思います。人が減り、高齢化が進む地域では、思ってもなかなか行動につながらない実態があります。目標に向かっては、地域でやってみようと思うきっかけづくりのため、市の支援（補助金要綱等）のハードルを極力下げて、特に、多世代交流につながるものは何でもOK的なものにすべきだと思います。</p>
3	津野委員	<p>意見なし。</p>
4	渡辺（秀）委員	<p>・再犯防止推進計画改定に係る意見交換会開催結果の報告があったこと理由。          ・第3期で基本目標1の「地域の多様な担い手の発掘と育成」に重点を置くのであれば、福祉教育の部分への取組をより充実させていく必要があるのではないかと思います。          7、8月の経営協ブロック別意見交換会（西部（四万十市で開催）と東部（香美市で開催）でも、各市町村が福祉人材確保のために今後、福祉教育をより充実させていくというお話（具体的な取組等）があがっていました。社会福祉法人の公益的取組として、高知市社会福祉法人連絡協議会で取組を進めていくべき内容かと思っています。</p>
5	田中委員	<p>基本目標「多様な主体の活動支援」のところに、「NPO法人と協働した子育てサポート交流会」とありますが、江ノ口や潮江地区で立ち上げている交流会は「地域住民が主体となって子育て世代を支えるための話合いの場づくり」を目的に立ち上げており、単にNPOがやっている活動の支援ではないと考えています。          特に今年度から立ち上げている潮江地域での子育てネットワークはまさに地域で子育て世代（未就園児とその家族）を支えるために様々な主体（子育て支援センター・保育園・子ども食堂・主任児童委員・社協・高知市など）で組織するネットワーク会議を開催しています。一年目の今年は潮江地域の子育て資源マップを作成していますが、今後、課題の共有、併せて課題を抱えている子育て家庭を地域で支えていく「具体的な仕組みづくり」を行っていくための話合いを進めていく予定です。このように分野（この場合は「子育て」ですが）に特化した話合いの場づくりはどの地域にも必要ではないでしょうか？今後、他地域にも広がることでより具体的な「課題解決」に繋がるのでは無いか？と考えています。          （相談、支援体制の「広報」「周知」の徹底）          基本目標「包括的な相談支援体制の充実」のところに「地域における見守り支えあいの充実」とあり、「ほおっちょけん窓口」など相談支援体制がありますが、窓口的な役割を果たしていることを知らない方がほとんどだと思います。窓口がいくらあっても知られていなくては活用する人が増えないのではないかと？もっと地域住民に知って活用して欲しい、このための「広報」や「周知」はとても大事だと思います。</p>
6	吉富委員	<p>事務局のみなさまにおかれましては、広範囲かつ多数のステークホルダーのある取組を丁寧にとめていただきありがとうございます。第3期高知市地域福祉活動推進計画の考え方についてもまったく異論はありません。          その上で、なぜ「住民」「行政（高知市）」「地域の多様な主体」が助け合う必要があるのか？の部分をもっとしっかり打ち出したほうがいいのではないかと感じました。          以前も少しお話ししましたが、例えば国土交通省の資料にあるように、これから急激な人口減が確実に起きる中で、感情論精神論で助け合いが必要といっているわけではなく、物理的数値的に、行政に税金として払って、公共サービスを受取る仕組みが保てないため、地域共生社会が必要であるという点を、計画の前段で出していいたのではと感思いました。  <a href="https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h24/hakusho/h25/html/n1111000.html">https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h24/hakusho/h25/html/n1111000.html</a></p>

	氏名	意見
7	渡辺（智）委員	<p>(1) 地域の現状にあったつながりづくりの必要性  →現在、地域では保育園や小学校の行事自体で保護者の協力も少なくなり、継続できなくなっている状況の地区もある。園の先生等が一生懸命行事の準備をしたり、親の代わりに支援をしている状況も聞く。  →町内会活動も、地域によっては崩壊している場合もある。一つの地域が崩壊したのであれば隣の地区の町内会がフォローするなどの体制も必要な地域もある。自身の地域でも区民運動会に住民が出れない地区もあり、今後どうするか課題となっている。  →潮江東地域コミュニティ計画において将来像は「こじゃんと つながるひがしのわ」としているが、まずはつながらないと始まらない。一部の住民での活動になっている場合もある。働いている世代も働きながら協力している状況もある。地域住民の活動だけで無理なら、その他とつながりながら一緒にやっていくことが大切になってくる。</p> <p>(2) 地域の活動（子ども食堂の取組、地域防災の取組等）の中でつながりづくり  →障害のある子ども達が育てた野菜を届けてもらうつながりや、障害を持った子どもさんの参加、高校生のボランティアの参加等、様々な人たちがつながってきている。もともと子ども食堂の代表者の思いとしては「ひきこもりの子ども達の居場所を創りたい」という思いもあった。自分達の活動の中で、ただ参加するだけではなく、「お手伝い」してもらおうこともたくさんある。  →子ども食堂を開催した目的はネグレクト等から子ども達を見守る、地域のコミュニティの場作り。コミュニティが広がる事により独居の方や障害を持つ方にも来てもらえるようになってきた。今後の課題としては、一年を通して安全に食事が提供できる場所の確保。調理器具等の保管場所・駐車場の確保など。  →地域の住民活動の中でも、大人たちだけで運営するとギスギスすることがあるが、子ども達が活動に入ると、皆の活動がスムーズになることがある。子供たちの存在は地域活動の中でも重要だと感じる。</p> <p>(3) 生きづらさを抱えた大人たちへの支援の必要性  →ひきこもりの子どもだけではなく、大人でも発達障害等の診断がないまま生きづらさを抱えている方の職場での働きづらさ（他の同僚と同じ働き方を求められる状況）や、周囲からの理解不足の場面も見ることがある。</p> <p>(4) 支援者との連携  →子ども達の状況等踏まえて、個人情報の問題があるのも分かるが、支援者にも地域の居場所を知ってもらって、ぜひつないでもらいたい。自分達も受け入れる中での配慮や気づきはしていきたい。</p> <p>(5) 子ども食堂の活動での悩み  →子ども食堂の開催場所がなく、現在、駐車場でやっている。潮江東の地域の中で、調理場所があって子ども食堂が開ける場所を探している。</p> <p>(6) 様々な活動の情報発信  →地域にはいろいろな活動したい思いを持った人がいるが、その存在を現在の活動者も知らない状況もある。また、いろんないい活動を実践していることも地域では知られていない。実際の活動を知ってもらうことと、地域で活動したい思いを持っている人が必ずいるので、その人を探していくこと、頼っていくことも大切ではないか。ぜひ、「あかるいまち」や市のLine等のSNSも活用した情報発信もしてもらいたい。</p> <p>(7) 狭間の子ども達への支援  →義務教育から成人までの子ども達への支援が弱いように感じる。子供たちは卒業後、なかなか社会の状況や相談先も知らないまま悩んでいる場合がある。特に親にも相談できないまま悩んでいる子供達にも出会う。自身も子育ての時期を少し出で、今だからこそ何かできることがあるのではないかと思う。子育てに忙しかった時期に出会った悩みを抱えた子供たちに温かい食事や支援の手を届けたいと思う。</p>
8	木村委員	<p>[実施予定の取組]の中の2-2「社会福祉法人」による「地域における公益的な取組」の推進とありますが、社会福祉法人に限定せず「福祉事業を実施している法人」というふうに門戸を広げたほうがより高知市地域福祉活動推進計画の実施に寄与するのではないかと考えています。</p>